東京薬科大学新聞

発行所
東京薬科大学
新聞会
責任者
二川祐政

後期学生大会

その議案書の内容を紹介

来る十二月二日に、平成四年度後期学生大会が開催される。以下は、その議案書の内容を要約したものである。

一、平成五年度カリキュラムと年間行事予定

来年度より週休二日制が導入されるのに伴い、年間行事日程、カリキュラム、土曜日のバス・部室の扱い等が大きく変更されると思われる。詳細は、学内連絡会議の後自治会ニュース等でお知らせする。

二、部室棟内会議室の管理について

現在、部室棟内にある四つの会議室のうち、第三会議室だけは鍵がかけられている。この度、管理上の問題からその他の会議室についても鍵をかけることになった。

使用したい場合は前日までに執行委員会室で予約すれば当日鍵を貸してくれる。また三階の第四会議室については学術部門室でも予約できる。

利用者の理解と協力をお願いしたい。

三、交通問題

①駐車場の利用方法について

今年十月に学部学生駐車場の移転を行ったが、そこに於いても違反駐車、車両へのいたずらの増加など、移転前に比べて問題は少しも解決されていない。よって、自治会では利用者に以下のことを義務づけたい意向である。

・駐車中は駐車許可証をダッシュボードの上に良く見えるようにして置いておく
・学年、氏名、車両番号の記入漏れのある駐車許可証は無効とする
・駐車許可証に記載された車両以外の駐車をしない
・夜間の駐車を認めない
・駐車場内では必ず徐行運転をする
・駐車場は駐車スペースの確保を目的としているため、駐車場内では各自が責任を持って管理する

②平成五年度・学部学生駐車場駐車許可証発行者の選定について

執行委員会の平成五年度駐車許可証発行者の選定基準は以下の通りである。

・身体に障害を持つ者を優先する
・交通の便の特に悪い者、自動車利用と他の交通機関の利用による通学の時間差が大きい者を優先する
・四年生はBコースの者よりAコースの者を優先する

また、駐車許可交付申請の有資格者は、以下の条件を満たしている者とする。

・大学が行う交通安全講習会に出席している者
・前年度、悪質な違反などを行っていない者
・原則として次の条件を満たしている者
　a 大学より半径五km以上離れている者
　b 大学より半径四十km以内で運転時間が一時間三十分を越えない者
　c 最寄りの駅から一・五km以上（徒歩二十～三十分）離れている者

ただし、身体に障害を持つ者は右記の通りでない。

なお、虚偽申請した者は交付後でも交付を取り消す。

許可証交付については平成四年十二月中に公示を行う。

四、自治委員会

現在、自治委員会で取り組んでいる事項

①図書コーナーについて
②規約改正に伴う自治会の活性化

五、規約改正案

自治会運営の現状にそぐわない点について、数カ所の現行規約（昭和五十一年施行）の改正を行う。

六、新歓祭実行委員会について

＊平成五年度新歓祭実行委員会の目的及び方針

四月から五月にかけて、以下の行事を予定している。

本部企画担当
・新入生歓迎キャンプ
・サルバルサンの発行

各部門担当
・学術部門担当行事
・体育部門担当行事
・文化部門担当行事
・同好会担当行事

委員長　2-A 稲葉健二郎
副委員長　2-C 相馬　優
　　2-F 高坂　結美
会計　2-D 古浜　健一

七、監査委員会について

今回の学生大会に於いて一番重要な議題は『五』の規約改正案だろう。かなり細かい所が取り上げられており、委員会に参加していない人にとってはピンと来ない点も多いだろうが、よく読んで、改正する意義を考えて欲しい。

また、規約改正よりもずっと身近に感じる人が多いと予想されるのが『三』の交通問題である。前年とほぼ同じだが、自治会が利用者に六項目の義務付けを提案したこと、及び許可証交付申請の際の条件が多少厳しくなったことなどが注目すべき点だろう。利用者の協力がなければ現在の駐車場でさえ使用できなくなってしまうかもしれない現実を、しっかり念頭に置いて頂きたい。

その他の問題点としては、『六』新歓祭実行委員会の発足がかなり遅れている点である。例年十一月上旬には発足しているものが（平成三年度は十月二十五日付けである）今年はいまだに始動の声が聞かれない。原因は何なのか、注目したいところである。

毎回、学生大会では、出席率の低さや聞く態度の悪さなど、本学の学生の良くない点ばかりが見られる。自分たちの学生生活に関わる問題であることを、よく自覚してもらいたい。

平成4年度後期学生大会議題

1．平成5年度カリキュラム・年間行事予定
2．部室棟内会議室の管理について
3．交通問題
4．自治委員会
5．規約改正案
6．新歓祭実行委員会について
7．監査委員会について

新聞会会員大募集

冬のおすすめミュージアム

『モネと印象派 ボストン美術館展』

日本では印象派の絵が高い人気を誇っている。それは一体なぜなのだろうか。日本にはもともと「俳句」という伝統文化がある。俳句は五・七・五の少ない字数で多くの事柄を表現する。わずかな言葉がその内に風景を感情を、あらゆる事象を内包しているのだ。

全てを克明に描写せずに曖昧にする。曖昧であるがゆえにより多くを物語る。

こうした情緒こそ「情趣」であり「風情」である。日本人は風情を大切にする国民である。目の前にある物質世界の後ろに精神世界や「趣」といったものを常に感じながら暮らしている。

こんな日本人の感覚が印象派の画家達の感性と合っているのだろう。日本で印象派の人気が高いのも当然と言える。

逆に印象派の画家達にとっても日本という国は魅力的な国だったようだ。ゴッホは葛飾北斎の絵の多くを模写した。モネは日本の庭園風景を数多く描いた。

現在、渋谷ロロロ美術館で開催中の「モネと印象派展」には、そんなモネの日本好きをはっきりと示す絵が展示されている。色鮮やかな着物を身にまとった妻カミーユの姿を描いたラ・ジャポネーズ」がそれだ。背景を彩るたくさんのうちわも日本への強い愛着を示している。この絵こそこの展覧会の白眉と言えるだろう。なお、同展には有名な連作「水蓮」なども展示してある。この機会に印象派の世界に親しんでみていかがだろうか。

ところで、美術館は絵を見る以外にもいろんな楽しみ方があることをご存知だろうか。そのひとつに「他人の会話を盗み聞きする」というのがある。

美術館の客には大別して二種類ある。展示してある絵について知識のない人とある人である。前者の代表はわゆる「おばさん」達である。

「こんな絵が部屋にあったら豪華だねぇ」「あの真リスト中にいるのがキ」などと実に他愛のない会話に終始している。

一方、絵の見識の深そうな人達の会話は絵画鑑賞に役立ちそうだ。ガイドさんだと思ってその後ろについていくと良い。

他にも「絵のひび割れを鑑賞する」「絵の中に画家のサインをさがす」などの楽しみもある。

おっと、こんなことばかりして肝心の名画を見忘れてはいけませんぞ。

図書コーナー設置

以前、本紙でもとりあげた「厚生棟の図書コーナー設置案」がいよいよ具体化され始めている。これは厚生棟に専門書以外の本を置こうという計画である。先頃、自治委員会によって実施されたアンケートの結果、この案に対して賛成票が多数得られたことから、今回図書コーナー設置のはこびとなった。

図書コーナーは厚生棟「こけら」に設置される。ここにはすでに大きな本棚が置かれている。

さて、肝心の本はこの本棚にいつ頃並べられるのだろうか。この件について自治委員会議長の米澤氏は「本棚全部を埋めることはそう簡単には来ないが、とりあえず年内に少し本を入れる予定です」と答えた。計画が遅れている理由として「何しろ新しい試みでもあるので色々なことに関して慎重に、しっかりとした枠組みを決めておきたい」ということだった。現在自治委員会では本の選定基準について検討の最中である。本の管理についても執行委員会と話し合っていきたいということで、本棚に本が並べられるのはもう少し先のことになりそうだ。

私達東薬生は、全体的に見て、専門書以外の本を読む時間が少ないように思われる。この原因の一つとして東薬の図書館には専門書以外の本が少ないということが挙げられるだろう。今回の「図書コーナー設置」の報は、時間的、金銭的制約で専門書以外の本から遠ざかっていた学生にとっては朗報といえるかもしれない。誰もが気軽にそして気持ちよく利用できる図書コーナーの完成を期待したい。

薬味

★プロ野球の雄読売巨人軍監督に長島茂雄氏が十二年ぶりに舞い戻ってきた。全国の野球ファンがこぞって歓迎したこの期野球界の模様など連日報道されていた。野球に関心のない人でもこれ程騒がれるのは、一度は聞いたことがあるであろう。★長島氏とは野球界が生んだ大プロ野球選手であり、引退時の大スポーツ。★しかし十二年前の十月二十一日、突然その悲劇が長島氏を襲った。巨人軍での監督を一方的に解任されたのである。読売巨人軍は主力選手の高年齢化にともなってチームの力が急速に衰ウンし、六年間優勝の二回という成績に満足できなかったのだ。当時の巨人軍は監督は巨人軍の将来を考え、若手を成長させることに情熱を注いでいたのである。読売は長島監督が着々と若手を育てていたことなど全く無視し、目先の結果だけに注目したのである。★将来のことを考えず、現在、多くの場合後先を考えずに自然破壊の利益だけを求めて自然を壊し続けたために起きてしまったことである。また今盛んに話題になっているバブル崩壊後の不況もこのパターンであり、もっと身近なところでは単位をとることだけを考え、卒業後、自分の実力のなさに気づき後悔する大学生達も同様である。これらは少しでも将来のことを考えていれば防げるのだ。★今回読売は長島氏と異例の五年という長期契約を結んだ。このことは読売が過去の解任を自分達の間違いであったと認め、もう同じ間違いは決してくりかえすまいとする姿勢のあらわれで目先のお金ばかりを追い求めてきた姿を反省し、将来をじっくり考えた行動をとることが大切なのではないだろうか。（G）

学内連絡会議

知るべきことは山ほどある

先月号で学内連絡会議は我々学生にとって非常に切実な内容を含んでいることをお伝えした。正式な日時と場所は十二月五日（土）十六時三十分から、図書館棟四階・第一会議室に於いてである。

連絡会議は、この改訂に携わった人間に直接質問ができる場として、そして我々学生の意見を直接伝えることのできる場として設けられているのだから疑問点を持つ学生は大いに参加すべきである。

そこで連絡会議に参加する人のために、今回のカリキュラム改訂やそれに伴う諸問題に関しての疑問点を挙げておきたい。参考にしていただければ幸いである。

まず疑問視すべきは、カリキュラム改訂そのものについてである。来年の四月から適用されるという割には、過渡期の授業体制についてかなり不明確な部分がある。また、相当急いで（カリキュラム特別委員会は本年四月に設置された）組まれたように思われる。これで本当にうまくいくのかどうか、かなり不安である。

今回の改訂においては、連絡会議を通じて本当なら学生の意見が反映できるはずである。しかし、すでに内容が決定してしまっているのなら恐らくそれも難しいだろう。更に具体的に見ていけば、実習が週三日になるのでレベルを落とさない限り、実習がハードになることが予想される。

他に授業が密になることから、授業の開始・終了時間や通学バスの本数の問題等が挙げられる。これらは新学部開設に関しても解決されねばならない問題である。

以上のことからだけでもカリキュラム改訂を急ぐことによっていたずらに問題を増やしているように思われる。留年・再履修等に関する問題もある。なくなってしまう科目の単位を落とした場合はどうなるのだろうか。

更に、これは前期の連絡会議の時にも指摘し、批判しておいたことであるが、今回もまた決定内容の通達があまりにも遅い。通達から実施までの約四ヶ月で、学生の意見を反映した内容にできるのだろうか。本来ならば発案の段階からその内容を公開し、随時学生側の意見も参考にしていくべきではないのか。

結局のところ今回の連絡会議では「なぜこれほど急いでカリキュラムを改訂しなければならないのか」が争点の中心になるだろう。全ての疑問点はそこに集約される。

他にも探せばまだまだ疑問点は出てくるだろう。これほど検討すべき問題が含まれている今回の連絡会議。厳しい目を持って多くの学生が参加することが望まれる。すでに決定したことを伝えるだけの大学側、そして連絡会議に参加しない学生、この両者が連絡会議を形骸化させるのだ。くれぐれも全てが決まってしまってから文句を言うようなぶざまなことだけは避けたいものだ。

冬の太陽

厳しい冬の季節が到来しようとしている。肌を刺すような寒さの中、暖かさを与えてくれる太陽は、冬にはとてもありがたい存在といえるだろう。

ところで冬の太陽と同様に人のぬくもり、人の心の暖かさというものもまた、冬はまわりが寒いだけに、より一層強くそして恋しく感じられないだろうか。

現代の社会、特に都会では人の心は冷たくなったと言われている。例えば朝のラッシュ時、人が波のように歩いている都心のとある駅前の大通りを想像していただきたい。その大通りのまん中で突然ひとりの人が苦しそうにうずくまったとする。周りの人々は果たして声をかけるだろうか。また、あなたであったらどうするであろうか。恐らく大半の人は、その人を気にしながらも素通りしてしまうのではないか。「こんな人にかまっていたら遅刻してしまう」「面倒な事になるから」などと思って見過ごしていってしまうだろう。皆、自分の事だけしか考えていない。いや、都会での生活は他人の事を心配しするといったこと自体ナンセンスなのかも知れない。

しかし突然の痛みに苦しみ、うずくまっている当人の心境はどうであろうか。「こんなに周りに人がいるのに、誰一人として助けてくれようとはしない。世の中冷たくなった」こんなふうに思うだろう。

人の心のやさしさ、人の暖かさというものは辛い立場、逆境にいればいるほどありがたく感じられる。そしてそのやさしさに助けられた者は、その後同じような状況にある人を積極的に助けようとするだろう。なぜならそのような人の心を自分の心のように感じ、理解できるから。

人の心を深く、そして本当に理解するためには、その人の気持ちを想像するだけではなく、その人の立場に立ってみることが一番であろう。だから人は子供の頃からいろいろな経験をする。そして大人になるにつれて、人の心が理解できる「本当の人間」になっていくのである。しかし今の子供達は小さい頃から受験戦争に巻き込まれ、勉強に多くの時間を費やすため社会的な経験が乏しくその結果冷淡な心の人間に育ってしまうのではないか。そして、このような子供達が大人になって形成していく「冷たい世の中」は人の心をさらに、すさんだものにしていく。

「忙しい」とは「心を亡くす」と書く。今、我々は現在の生活と引き換えに亡くしたものを心の中に呼び戻す、そんな時代を迎えている。

（高橋明弘）

新部門長就任挨拶

この度、各部門の執行交代により新部門長が決定した。部門長は東薬のクラブ活動の総責任者である。そこで今回各新部門長に部門長就任にあたっての決意、抱負などについて語っていただいた。

学術部門長　中西宏明

この度、学術部門長になりました中西宏明です。執行をとるにあたり私は、あらゆる面で魅力ある学術部門にしていきたいと思っています。それというのも今は、今までの部門の方々に築いていただいた基礎を固めていくと同時にさらにそれを土台に飛躍していく時期にあるように思えるからです。特に柚木オリ、学術発表会などは、その成果を学生全体に見ていただける場と思って力をいれていきたいと思います。それには、まず誰にでも信頼される部門でなくてはなりません。そのために私をはじめ、部門一同努力していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

文化部門長　宍戸晃

辺りを見回すと木々もすっかり色づき、秋風が肌に染みる季節となりました。

この時節、一つの大きな変化として執行交代が行われるわけですが、文化部門も例外ではなく、前部門長の小畑さんに代わり、私が部門長を務めさせていただくことになりました。これまで執行をとってこられた先輩方、本当にお疲れさまでした。

これからの文化部門としては、文化というものを通じて一つになり、学生生活に花を咲かせるように頑張りますので、これからよろしくお願いします。

体育部門長　棚澤重幸

十一月二十五日をもって、我々十二名が体育会部門の執行を一年間とっていくことになりました。

現在の体育会の状況を考えた時「各部のつながり」が、希薄になっている様に思われます。それぞれ異なる競技を行っていても同じ体育会に所属していて、もっと各部のことを知り合う機会を与えられるのではなく、積極的に持つべきと思います。これらのことを含め、よりよい体育会を目指して頑張っていこうと思います。

よろしくお願い致します。

同好会会長　國松直人

新しく同好会会長になりました國松直人です。同好会会長になってこれからの同好会を特別に変えていこうとかいう考えはありません。今まで通りの楽しい同好会にしていこうと思っていますのでよろしくお願いします。

動物慰霊祭

暮れも押し迫った十二月、今年もこの一年間の実習・研究で犠牲になってくれた実験動物達に対する慰霊祭が計画されている。毎年、実験に動物を扱う教授方や院生・学生を中心に多くの参列者が詰めかけるこの慰霊祭、ステージにはたくさんの花が実験動物の遺影を飾り、また寺の住職をじきじきに招くといったように本格的なものである。

実験動物は我々の研究・実験にはどうしても必要な存在である。科学、とりわけ医療がここまで発展した裏に彼らの犠牲があったことは言うまでもない。動物達の魂が安らかに眠るように皆さんが慰霊祭に参加されることを望む。

謎の倉庫

新学部校舎建設で車両の出入りの激しくなった実験動物棟前の道をさらに登っていくと、比較的最近建てられた倉庫が見えてくる。この倉庫が新学部と意外な関係があるのを皆さんはご存知だろうか。

この倉庫には研究棟2号館1階にある保管室の機材が運び込まれる。一方、今まで保管室は図書館棟3階の標本室に代わり新たな標本室となるこの様にして図書館棟に空き部屋をつくった理由は何なのか。実は、この部屋は新学部の扱う研究に必要な書物を置くスペースなのである。なお、ここに置かれる文献は誰でも自由に使用することが出来る。

校外展

今年も例年通り、十一月二十七日（金）から十二月二日（水）まで、八王子市民センター北野フランツ七階において、本学美術部による『校外展』が催される。

展示内容としては二、三、四年生の部員による油彩を中心に水彩、パステル画等が多数出展される。

美術部長衣川浩司氏に今回の『校外展』の見所についてお話を伺ったところ「今年は力作ぞろいなので、是非たくさんの人に見にて来て欲しい」という自信に溢れたお返事をいただいた。

木枯らしの吹き抜ける外を気にせずに、暖かい室内で芸術鑑賞をして、ゆったりした気分になるのもたまには良いのではないだろうか。

なお会場へは京王線北野駅がもっとも近く、入場は無料である。

行事予定

十二月

二日	学生大会
五日	学内連絡会議
二十一日	年内授業終了
二十五日	冬季休暇開始

編集後記

今朝は競馬場から響いてくる花火の音で目覚めました。なんて優雅な朝なのでしょう。日曜を部屋で過ごしたい…（F市・学生）

ゑ今回で我々は新聞作りのお手伝いをしてきましたが、これからも良い新聞をつくってほしい。頑張れ新聞会！（小倉山）

ハ時は金なり　貧乏暇なし　②①時≒暇だから、①、②より貧乏金なしが成り立つ。（渡鳥）

「証明終わり」

◎今回は皆様方に大変御迷惑をお掛けいたしました。記事様の力添えなしでは私の目をよしとはなかったのでしょう。（池）

⑲怒濤のスケジュールを乗り切りました。会員の皆さん、ごご苦労さま。また、御迷惑、御心配をおかけいたしました方々には深くお詫び申し上げます。（二川）

Ψ今朝は競馬場から響いてくる花火の音で目覚めました。なんて優雅な朝なのでしょう。日曜を部屋で過ごしたい…（F市・学生）

ゑ今回で我々は新聞作りのお手伝いをしてきましたが、これからも良い新聞をつくってほしい。頑張れ新聞会！（小倉山）

ハ時は金なり　貧乏暇なし　②①時≒暇だから、①、②より貧乏金なしが成り立つ。（渡鳥）

「証明終わり」

◎今回は皆様方に大変御迷惑をお掛けいたしました。記事様の力添えなしでは私の目をよしとはなかったのでしょう。（池）

⑲怒濤のスケジュールを乗り切りました。会員の皆さん、ごご苦労さま。また、御迷惑、御心配をおかけいたしました方々には深くお詫び申し上げます。（二川）